

## ⑪新名神高速道路（新四日市JCT～亀山西JCT）の開通

受賞機関 中日本高速道路株式会社 名古屋支社  
四日市工事事務所

**キーワード** 広域道路ネットワーク形成、ストック効果、新工法の橋梁

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

新名神高速道路の新四日市JCTから亀山西JCTまでの延長22.9km区間を平成31年3月に開通させた事業。工事にあたり、構造物や法面の点検性を向上させるきめ細かな工夫をした点や、耐久性に富んだ新たな舗装構造を採用した点、新工法の橋梁を構築した点、地元鈴鹿市と連携して鈴鹿PAのサービスを提供するなど多様な工夫を取り入れた点が評価された。

### 1. はじめに

新名神高速道路は三重県四日市市から兵庫県神戸市を結ぶ延長約150kmの高速自動車国道であり、本開通区間は三重県四日市市から同県亀山市までの約23kmにあたる。本路線は新東名高速道路と同様の道路構造を適用しており非常に走行しやすい路線となっている。ここでは安全性、特徴的な構造物や点検性向上としての取組みを紹介する。

### 2. 取組み概要

新朝明川橋では、河川および国道への影響を考慮し国内初となる鋼・PC混合アーチ補剛箱桁を採用している。事故時の損傷軽減を考慮し路肩構造物の突起物や鋭角部を少なくした。点検の容易性を向上させるため、法面点検用梯子や手摺り、転落防止柵の設置、橋梁箱桁内の点検用照明器具の設置を行った。舗装路面の耐久性向上として、連続鉄筋コンクリートをアスファルト下に敷設している。鈴鹿PAでは鈴鹿市の地域産業・伝統工芸の振興発信の場となる地域連携スペースを設け、レーシング

カー、鈴鹿墨や伊勢型紙などを展示し地場産業の情報発信を行っている。

### 3. 事業の成果

三重県内の東名阪自動車道は大阪方面、伊勢方面への主要路線であり、休日、平日ともに渋滞が多発していたが、新名神開通後は大幅に渋滞が減少した。開通1カ月後の交通量は新名神、東名阪道合せて約1割の増加となった（約112,000台/日）。鈴鹿PAにおいては一般道から来場できる駐車場（ぶらっとパーク）も含め想定以上のお客さまにご利用いただき大変ご好評をいただいている。

### 4. おわりに

1989年2月の基本計画決定から約30年の時を経て2019年3月17日に開通を向えることができた。工事実施中は、沿線地域の方々をはじめ、多くの関係機関の皆様を支えられて事業を進めることができた。



鉄入れ・久寿玉開披



位置図と交通量（開通後1ヶ月）

また、開通により、渋滞や事故の減少、高速道路ネットワークが拡大されたことによる通行止め・大規模規制時の代替・迂回路としての機能、交通の円滑化に伴う地域の発展、物流の効率化など、さまざまな開通効果が期待されている。

本路線が末永くお客さまから期待された役割を果たし続けることで建設事業を支えていただいた皆様や経済発展などに貢献できるものと思っている。

賛助会員 (株)大林組、鹿島道路(株)、川田建設(株)、五洋建設(株)、(株)NIPPO、(株)ピーエス三菱、(株)フジタ、三井住友建設(株)